

Tokyo City University 東京都市大学

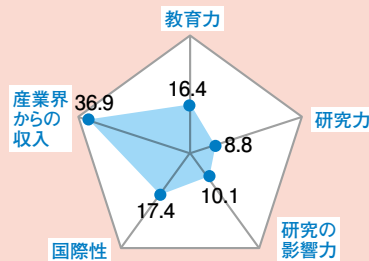
ランク向上は学生に対する誠意 研究を核に世界300位以内をめざす



学生数 / 8,150人
学部 / 工、知識工、環境、メディア情報、都市生活、人間科
大学院 / 工学、環境情報学

指標	ポイント	ランキング	その他指標
総合	<18.5	801+位	ST比率 / 15.9
教育力	16.4	801+位	留学生の割合 / 2%
研究力	8.8	801+位	
研究の影響力	10.1	801+位	女男比 / 21 : 79
国際性	17.4	801+位	
産業界からの収入	36.9	501-600位	

ランキング担当部署:企画室



*データは全て THE 世界大学ランキング 2016-17 に基づく

ランクインにより ついた自信

2013年、中期計画「アクションプラン2030」が動き出しました。そこで掲げたビジョン「国際都市東京で存在感を示す有数の私大」を具現化するために、日本のトップ私大と位置付けられるべきランクとして「300位以内」を目標にしました。今回初めてT H Eにエントリーし、ランクインできたことはうれしく、自信になりました。

私は^{*1}アセアン工学系高等教育ネットワークに携わる中で、ランクを基準に学び先を求めて国際的に移動するアジアの学生や、ランクを意識した改革で成果を上げ、自信をつけていくアジアの大学の姿を目の当たりにしてきました。アセアンでは今、^{*2}チュラロンコン大学が人気です。^{*3}NUSではMITの講義が受けられます。果たしてこのような動きを無視していいのか。ランキングの評価指標は国が進める大学改革の方向

性とも一致しています。つまりランキング不参加は、改革やグローバル化を放棄したも同然で、学生に申し訳が立たない。本学の入学難易度は高くはありませんが、改革を通じて世界ランクを上げ、入学時の序列を挽回するチャンスを生学生に与えたいと考えています。

私学の誇りにかけて 研究はあきらめない

私学の弱点は研究力です。本学は私学のプライドにかけて研究に力を入れています。重視するのは、科研費の獲得額。獲得額が増えれば論文数も増えます。科研費の採否はピア・レビューによって決まるので、獲得額は大学の評判を示すとも言えます。副学長3人を通じ、獲得額を意識したり国際的なジャーナルに論文を投稿したりするよう、教員に促しています。

「国際性」については、学生の流動性を高めようと、海外派遣を強化し始めました。2年生約250人が5か月間、豪州の^{*4}公立工

デイスコーワン大学で学ぶ東京都立大学オーストラリアプログラム(TAP)を2015年度に開始したほか、留学制度の拡大に備えてクォーター制を採用しました。また^{*5}マレーシア工科大学と新たに包括協定を締結するなどアジアの大学とも連携を進めています。

今後は分散している研究所と大学院、学部の一体化を進め、「教育力」と「研究力」の同時強化を図ります。その拠点として、学部生の教室を含む8千㎡の研究・実験棟の設置が決まりました。学部生、大学院生、教員が研究を協働し、論文を書く。これほどいいアクトイブ・ラーニングはないでしょう。研究が活気づいた結果、博士号取得者が増え、海外研究者が入れば、研究力、評判、獲得資金など、全分野のスコアの向上が期待できる。まずは、600位台をめざします。



学長
三木千壽

みきちとし ● 1972年東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了、東京大学助教授、東京工業大学理事、副学長(教育・国際担当)などを経て、2012年から東京都市大学へ、副学長(国際担当)、国際センター長を経て2015年から現職。専門は構造工学、鋼構造学、橋梁工学、博士(工学)。

*1 AUN/SEED-Net、アセアンの26の中核大学と、日本の14大学が参画。アジアの中での工学系人材育成をめざし、留学、共同研究、ネットワーク形成を中心に活動
*2 THE世界大学ランキング2016-17では601-800位 *3 シンガポール国立大学、ランクは24位 *4 501-600位 *5 601-800位